令和5年度実施事業における
点検・評価 報告書

令和6年10月

四條畷市教育委員会

目　　次

ページ

四條畷市教育委員会の取組み　……　1

1　事務の点検・評価について

（1）点検・評価の趣旨　……　2
（2）点検・評価の対象　……　2
（3）点検・評価の実施方法　……　2
（4）点検評価シートの見かた　……　3

2　教育委員会の活動状況

（1）教育委員　……　5
（2）教育委員会の役割　……　5
（3）教育委員会の開催状況　……　5
（4）教育委員の主な研修及び活動
　① 教育委員　……　8
　② 教育長　……　9
　教育委員会組織図（令和5年4月1日現在）　……　11

3　点検評価シート

基本方針1【主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進】
確かな学力の育成　……　13
豊かな心の醸成　……　15
健やかな体の育成　……　17

基本方針2【個を認め、寄り添い、活かす教育の推進】
ライフステージに応じた継続的な支援の充実　……　19
多様なニーズに即した教育の提供　……　21

基本方針3【地域の教育コミュニティづくりへの支援】

家庭・地域・学校の連携、協働の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

基本方針４【豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援】
生涯を通じた学習活動の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
生涯を豊かにする文化芸術・スポーツ活動の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

基本方針５【学びを支える教育環境の整備】
安心・安全な施設等の段階的整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
持続的で魅力ある学校教育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

基本方針６【学びを支える教育体制の整備】
教職員の資質能力の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
持続可能な指導体制の整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
ICT 利活用のための基盤整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

令和5年度実施事業における点検評価総評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

四條畷市教育委員会の取組み

私たちを取り巻く社会は、人生100年時代の到来、超スマート社会（Society5.0）の実現に向けた急速な技術革新、大規模災害や感染症の世界的大流行（パンデミック）といった未曾有の事態への対峙など、大きな転換期を迎えています。

このような中、国においては、令和5年6月に新たな教育振興基本計画を策定し、持続可能な社会の創り手の育成及び日本社会に根差したウェルビーイングの向上の2つをコンセプトに、両者の相互循環的な実現に向けた取組みが進められるよう教育政策を講じていく必要があると示されました。

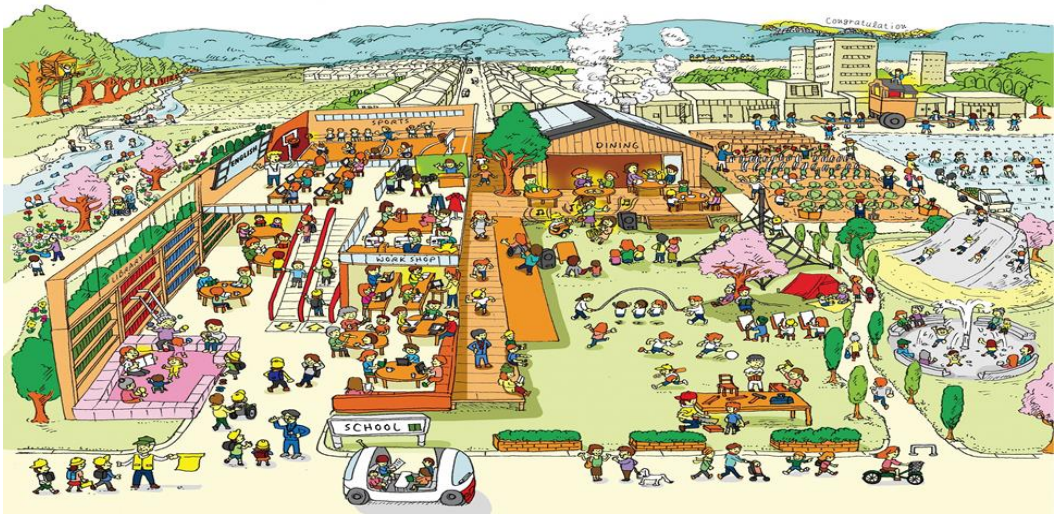
本市においても、これまでの教育振興ビジョンに基づく取組みのさらなる充実と発展に加え、将来を見据えた教育の長期的な展望を示し、本市が進むべき方向性を定めることを趣旨に、令和3年度に教育振興基本計画を新たに策定のうえ、計画に基づく各種の取組みを進めています。

また、教育委員会と市長部局がそれぞれの役割を理解しつつ、各分野における関連施策等を通じた相互連携、相互補完が重要であるとの認識から、それぞれに歩調を合わせ、関連施策の連携を図りながら教育施策を推進しています。

四條畷市教育振興基本計画

みんなの学びが叶うまち

～ 生涯 学び 夢 挑戦 ～



今後も独立した執行機関として、政治的中立性、継続性、安定性の確保、教育行政の多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価点検という役割を担いつつ、本市教育の更なる推進に取り組んでまいります。

1 事務の点検・評価について

（1）点検・評価の趣旨

① 教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組み状況について、点検及び評価を行い、課題や方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図ります。

② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市民への説明責任を果たすため、これを議会に提出するとともに公表します。

（参考法令）地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（2）点検・評価の対象

「教育振興基本計画」（※）に基づき推進する施策、事業を対象に点検・評価を行います。

（※）「教育振興基本計画」 参考資料

令和4（2022）年度から令和17（2035）年度までを計画期間に定め、将来を見据えた教育の展望を示し、本市が進むべき方向性を定めたもの。教育基本法第17条第2項に規定する計画として位置付けています。

（3）点検・評価の実施方法

① 本市の点検・評価は、教育委員会が掲げる教育の理念、目標と各課が実施する事業の関連性を示すため、教育の総合的な計画に位置付ける教育振興基本計画の体系に基づき実施します。

② 点検・評価にあたり、客観性を確保するため、学識経験を有する方にも会議に出席いただき、そのご意見を参考とします。

【学識経験者】

・千里金蘭大学 教 育 学 部 教 育 学 科 教授　島　善 信 氏

・京都女子大学 発達教育学部 教 育 学 科 教授　岩 槻　知 也 氏

（4）点検評価シートの見かた

① 基本方針、施策及び施策の方向性

教育振興基本計画に掲げる基本方針、施策及び施策の方向性を記載

② 分野別計画等

関連する分野別計画やアクションプラン等を記載

③ 指標

施策や事業の成果・効果等を測定するに相応しい指標を、分野別計画等に掲げる指標や各種アンケートの結果等を活用して記載

④ 主な取り組み実績

令和5年度に実施した主な施策や事業とその概要、実績を記載

⑤ 評価（※）

令和5年度施策や事業について、4段階で全体評価を行い、先進性及び創意工夫の要素を加えた評価を記載

⑥ 振返りと評価の説明

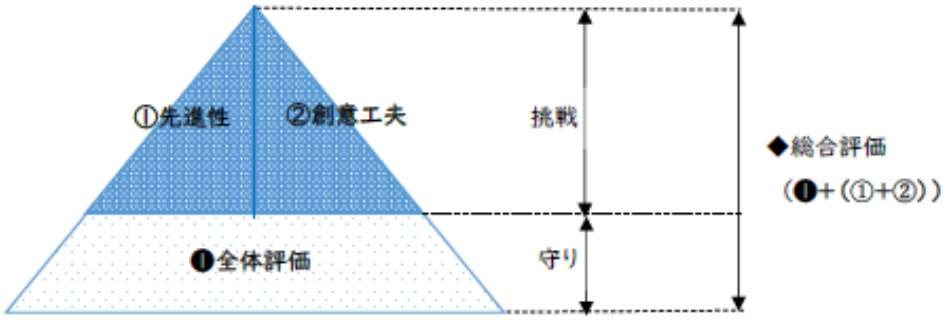
令和5年度施策や事業の振返りと評価の理由について記載

⑦ 今後の課題や方針

令和5年度施策や事業の振返りと評価を踏まえた今後の課題と方針を記載

【※評価の方法】

施策に関する評価



❶全体評価

基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか

評価	順調	概ね順調	やや課題あり	課題あり
点数	4点	3点	2点	1点

①先進性

国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか

評価	躍進的	前進	なし
加点	+2点	+1点	なし

②創意工夫

市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか

評価	躍進的	前進	なし
加点	+2点	+1点	なし

◆上記の全体評価に先進性、創意工夫を加点した総合評価（❶+（①+②））

総合評価	S	A	B	C
合計点	8点	5点～7点	2点～4点	1点

2 教育委員会の活動状況

（1）教育委員

役　職　名	氏　　名
教　　育　　長	植　田　　篤　司
教育長職務代理者	山　本　　博　資
委　　員	佃　　千　　春
委　　員	河　　田　　文
委　　員	尾　﨑　　靖　二

（令和5年4月1日現在）

（2）教育委員会の役割

平成27年4月1日から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正による新教育委員会制度では、地方教育行政における首長の責任がより明確になることによって、首長のもとで教育施策を進める体制ができ、教育長の任免、教育に関する大綱の作成、総合教育会議における協議などを行っています。

法改正により、教育行政の責任者としての教育長のリーダーシップが高まりますが、教育長以外の非常勤の委員で構成する教育委員会において、意思決定を多数決で行う仕組みは、引き続いています。

これからも、教育委員会は、執行機関として、教育の政治的中立性、継続性、安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価、監視という重要な役割を担ってまいります。

（3） 教育委員会の開催状況

原則として、毎月1回「教育委員会定例会」を開催するとともに、必要に応じ、「臨時会」を開催しています。

開 催 年 月 日	案　　件　　名	議 決 等
令和5年4月26日 （定例会）	四條畷市教育委員会点検評価に係る学識経験者に付する主たる施策について	可　決
	四條畷市立学校教科用図書選定委員会委員の委嘱について	可　決

	四條畷市立学校教科用図書選定委員会への諮問について	可　決
	四條畷市立学校夏季休業日における学校閉庁日の実施について	報　告
	四條畷市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について	報　告
令和5年5月31日 （定例会）	四條畷市社会教育委員の委嘱について	可　決
	四條畷市立公民館運営審議会委員の委嘱について	可　決
	四條畷市立図書館協議会委員の任命について	可　決
令和5年6月28日 （定例会）	令和5年度教育委員会事務局職員人事について	報　告
	議会の議決に付すべき契約に対する意見の申し出について	報　告
	四條畷市立小学校及び中学校における教育指導の計画について	報　告
	四條畷市立学校結核対策検討委員会委員の委嘱について	報　告
	令和5年度一般会計補正予算（第4号）に対する意見の申し出について	報　告
令和5年7月26日 （定例会）	令和6年度使用四條畷市立学校教科用図書の採択について	可　決
	令和5年度教育委員会事務局職員人事について	報　告
	四條畷市教育委員会指定管理者選定・評価委員会委員の委嘱について	報　告
	史跡飯盛城跡保存活用計画（原案）の策定について	報　告
令和5年8月30日 （定例会）	学校管理職の休職に係る内申について	報　告
令和5年9月27日 （定例会）	四條畷市教育委員会における公の施設に係る指定管理候補者の選定結果について	報　告
	教育委員会事務局職員の休職について	報　告
	令和5年度教育委員会事務局職員人事について	報　告
令和5年10月25日 （定例会）	令和4年度四條畷市教育委員会点検・評価について	可　決
	四條畷市立学校給食センター施設・設備等修繕計画の改訂について	可　決
	四條畷市教育委員会における公の施設に係る指定管理者の指定に対する意見の申し出について	可　決
	令和6年度当初予算要求に盛り込む施策、事業について	可　決
	令和5年度一般会計補正予算（第7号）に対する意見の申し出について	報　告

	第4次子ども読書活動推進計画（原案）の策定について	報　告
	令和6年度機構改革（案）について	報　告
	学校管理職の復職に係る内申について	報　告
	四條畷市立中学校におけるいじめ重大事態について	報　告
令和5年11月29日 （定例会）	社会教育施設の管理運営に関する評価結果（令和４年度分）について	報　告
	令和5年度四條畷市スポーツ・文化奨励賞の受賞者について	報　告
	令和5年度一般会計補正予算（第8号）に対する意見の申し出について	報　告
令和5年12月27日 （定例会）	四條畷市立市民活動センター施設・設備等修繕計画の改訂について	可　決
	四條畷市立市民総合体育館施設・設備等修繕計画の改訂について	可　決
	四條畷市立なわてふれあい教室条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	報　告
令和6年1月17日 （定例会）	令和6年度全国学力・学習状況調査の参加及び協力について	報　告
令和6年2月7日 （定例会）	四條畷市教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	四條畷市教育委員会事務局決裁規程等の一部を改正する規程の制定について	可　決
	四條畷市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	四條畷市学校施設整備方針の改訂について	可　決
	令和6年度教育委員会事務局職員人事の臨時代理について	可　決
	令和6年度一般会計予算に対する意見の申し出について	可　決
	令和6年度学校管理職人事の内申について	可　決
令和6年3月27日 （定例会）	四條畷市教育委員会事務局組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可　決
	第4次四條畷市子ども読書活動推進計画の策定について	可　決
	令和5年度一般会計補正予算（第11号）に対する意見の申し出について	報　告
	令和6年度教育委員会事務局職員人事について	報　告

（4） 教育委員の主な研修及び活動

① 教育委員

令和5年5月22日	令和5年度大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会に参加
令和5年5月25日 ～6月1日	教育委員会学校訪問に参加
令和5年6月29日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会（オンライン）に参加
令和5年9月7日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会（オンライン）に参加
令和5年9月22日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（奈良県生駒市）
令和5年9月30日 ～10月20日	小学校運動会、中学校体育大会に出席
令和5年10月31日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（奈良県奈良市）
令和5年11月7日	令和5年度近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）に参加
令和5年11月24日	令和5年度北河内地区教育長協議会研修会に参加
令和5年12月21日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会（オンライン）に参加
令和6年1月29日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（大阪府池田市）
令和6年1月30日	令和5年度大阪府市町村教育委員会研修会（オンライン）に参加
令和6年2月2日	令和5年度北河内地区教育委員会委員研修会に参加
令和6年3月14日 ～18日	令和5年度小中学校卒業式に出席

② 教育長

令和5年4月6日	令和5年度市町村教育委員会教育長会議に参加
令和5年4月14日	令和5年度大阪府都市教育長協議会総会・4 月定例会に参加
令和5年4月20日	令和5年度第1回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
令和5年4月27日 ～28日	令和5年度近畿都市教育長協議会定期総会に参加
令和5年5月8日	令和5年度大阪府都市教育委員会連絡協議会第1回役員会に出席
令和5年5月22日	令和5年度大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会に出席
令和5年5月25日 ～6月1日	教育委員会学校訪問に参加
令和5年6月8日	西フェス体育の部視察に参加（四條畷西中学校）
令和5年7月6日	令和5年度第2回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
令和5年7月7日	令和5年度大阪府都市教育長協議会7月定例会に参加
令和5年7月10日 ～11日	令和5年度北河内地区教育長協議会研修に参加
令和5年7月28日	令和5年度大阪府都市教育長協議会夏季研修会（1日目）に参加
令和5年8月18日	令和5年度大阪府都市教育長協議会夏季研修会（2日目）に参加
令和5年8月29日	令和5年度大阪府都市教育委員会連絡協議会第2回役員会（オンライン）に出席
令和5年9月7日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会（オンライン）に参加
令和5年9月22日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（奈良県生駒市）

令和5年10月6日	令和5年度大阪府都市教育長協議会10月定例会に参加
令和5年10月26日 ～27日	令和5年度近畿都市教育長協議会研究協議会に参加
令和5年10月31日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（奈良県奈良市）
令和5年11月7日	令和5年度近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）に参加
令和5年11月21日	令和5年度大阪府都市教育長協議会秋季研修会に参加
令和5年11月24日	令和5年度北河内地区教育長協議会研修会に参加
令和6年1月8日	令和6年二十歳の集いに参加
令和6年1月19日	令和5年度大阪府都市教育長協議会１月定例会に参加
令和6年1月22日	令和5年度第3回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
令和6年1月29日	令和5年度四條畷市教育委員会研修（大阪府池田市）
令和6年1月30日	令和5年度大阪府市町村教育委員会研修会に出席
令和6年1月30日	令和5年度第4回北河内地区教育長協議会及び北河内地区人事協議会に参加
令和6年2月15日	令和5年度市町村教育委員会教育長・学校教育指導主管部課長会議に参加
令和6年3月18日	岡部小学校卒業式に出席

その他 市及び社会教育団体等主催のイベントに出席

教育委員会組織図（令和5年4月1日現在）

- 教育長
  - 教育部
    - 教育総務課
    - 学校教育課
    - 学校給食センター
    - 教育支援センター
    - 青少年育成課
    - スポーツ・文化財振興課
    - 文化・公民館振興課
    - 図書館
      - 田原図書館
  - 市立学校
    - 田原小学校
    - 四條畷小学校
    - 四條畷南小学校
    - 忍ケ丘小学校
    - 岡部小学校
    - くすのき小学校
    - 四條畷中学校
    - 四條畷西中学校
    - 田原中学校

点 検 評 価 シ ー ト

基本方針	1	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	確かな学力の育成

◈施策の方向性

①就学前教育について、乳幼児期から小中学校の教育へ、縦の連携による円滑な接続を図るため、小中学校との相互理解を深めるとともに、連携の推進に努めます。
②わかりやすく、深まる授業の実現と学びの保障を趣旨とした教員研修を重ね、児童生徒の情報活用能力の育成や習熟度に応じた学習支援の強化に取り組みます。
③カリキュラム・マネジメントに努め、教育活動の質の向上を図ります。
④ICT利活用計画に基づき、1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざします。
⑤子どもたちの読書環境を整備し、読書習慣の定着を図ります。また、学校と市立図書館が連携のもと、学校図書館の活性化にあたり、読書活動の効果的な推進を図ります。
⑥早期から本物の英語に慣れ親しむ機会を設け、身近な事柄について外国語を使って表現できるコミュニケーション能力の育成を図ります。

◈分野別計画等

・乳幼児教育保育アクションプラン ・第2期子ども・子育て支援事業計画 ・まなびのプラン ・市立小中学校におけるICT利活用計画 ・第3次子ども読書活動推進計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
各教科の平均正答率（観点「思考・判断・表現」）の全国平均正答率を1とした時の割合 出典 全国学力・学習状況調査	%	実績	小:90.8 中:94.3	実施なし	小:94.7 中:93.9	小:92.7 中:91.1	小:93.7 中:94.5
		目標（※）				95	96
「ICT機器を活用することで、進んで（主体的に）学習するようになった。」という問いに対して肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 児童生徒アンケート	%	実績			65.9	64.3	62.7
		目標（※）			50	55	60
英語技能検定公費負担数 （3級以上を受検した中学校第3学年の人数） 出典 市実績	人	実績	274	173	136	175	162
		目標（※）					
学校図書館図書貸出数 出典 学校図書館システム統計	冊	実績	86,523	89,048	98,033	97,157	102,824
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	教職員の指導力向上推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	学力向上対策コーディネーター配置、学力向上担当者会開催、全国標準学力検査（NRT（※））実施した。 ※NRT（標準学力検査）：学習指導要領に示された目標に対する学校及び児童・生徒の到達度を調査し、上級学年への教育に円滑に繋げる指標を得るとともに、本市の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目標として、実施している学力検査		
	活動実績	(1) 学力向上対策コーディネーターを配置し、調査分析、各校の好事例の収集、市や各校の学力向上の取組みのホームページ発信、市の学力向上の取組みのPDCAを進めた。 (2) 市の学力向上の重点目標達成のため、学力向上担当者会を年間10回（学校公開含む）開催した。 (3) 全国標準学力検査（NRT）結果から、各小中学校が自校の取組を分析検証し、授業改善を進めた。		
②	事業名	情報教育研修（教育支援センター）	施策の方向性番号	④
	事業概要	市主催情報教育担当者会を通して、各校のICTの活用促進を図った。		
	活動実績	・情報教育担当者会を年間6回実施することでICTの利活用の平準化が図れた。 ・担当者会で児童生徒に情報活用能力を育成するためのカリキュラム表を作成し、令和6年度から学校で活用できるようにした。 ・AI型ドリル活用研修に業者から講師を招聘し学校へ派遣した。家庭学習での利活用のモデル校として実施した。		

③	事業名	英語教育推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	⑥
	事業概要	市全体で英語教育を推進しているなか、英語に興味を持ち、目標をもってチャレンジする子どもへの支援として各種受検者用の補助を行った。		
	活動実績	・小学校第6学年 …「GTEC（※） Junior2」受検料を全額補助（年1回） ・中学校第2学年 …「GTEC（※） Core」受検料を全額補助（年1回） ・中学校第3学年 …「実用英語技能検定（英検）」受検料を全額補助（3級以上を受検した3年生に対し年1回） ※GTEC：小学生から社会人までの方が英語力（「読む・書く・話す・聞く」の4技能）を測定できるスコア型英語検定試験		
④	事業名	学校図書館支援事務（図書館）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	市内小中学校に市立図書館から職員を派遣のもと、学校図書館の活性化を図った。 （図書室の開室、図書の時間のサポート、図書室内整理・飾付、図書整理、購入図書選書サポートなど）		
	活動実績	小中学校全9校に職員の派遣を行った。 【支援日】学期中の火～金曜日（開校日）。1日あたり小学校は5時間以内、中学校は4時間以内。		

	R1	R2	R3	R4	R5
年間開室日数（小中学校計）	865	1,006	1,196	1,269	1,319

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【学校教育の分野】
確かな学力の育成に向けて、各種担当者会を開催し、各校の取組みの好事例を、市の重点と重ねながら、共有することができた。また、各種調査を活用しながら、学校の学力向上の取組みを考えるというPDCAサイクルの確立ができている。
現在求められている情報活用能力向上をめざし、情報活用スキルカリキュラム表の作成に取り組むなど一定の先進性のある取組みを実施した。
【図書の分野】
子どもたちの読書習慣の定着を図るため、第3次子ども読書活動推進計画のなか、重点施策に位置づける学校図書館支援について、令和5年度は、前年度に引き続き全小中学校へ職員を派遣のもと、種々の取組みを行った。
●総括●
市立図書館からの人的支援は、他市事例が少ないことから先進性を有すると考えられるとともに、近年、多忙さが課題となっている学校教員の事務省力化に資することにより教員の本来の業務である確かな学力の育成に注力できる時間の確保につながると考えられることから効率的な取組みでもあると判断し、全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

国や府の調査をより効果的に活用する方法について学校現場の意見を参考にしながら検討する必要があるとともに、府の研修や他市町村の研修体制も参考にしながら、教職員がさらに主体的に学べるような研修体制やしくみづくりが必要である。
児童生徒アンケート項目「ICT機器を活用することで学習が楽しくなった」と回答した割合が令和3年度84.9%、令和4年度79.7%、令和5年度60%と減少が顕著である。この課題に対して、各種研修会において、ICTを活用した児童生徒の学びの好事例を収集・発信・普及に努める。
英語に興味を持ち、目標をもってチャレンジする子どもへの支援という位置づけでの各種受検者用の補助にとどまらず、その結果をもとに、各校の授業づくりへ活かしていけるよう、英語教育担当者連絡会を通じて、市の英語教育の推進を図る。
全小中学校の学校図書館支援となると、一定数の人員が必要となることから、毎年、人員の確保に苦慮している。人的支援は、マンパワーがすべてといえるので、継続的に進めるには、安定した人員確保が期待できる方策を考える必要がある。

基本方針	1	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	豊かな心の醸成

◈施策の方向性

①一人ひとりを大切にする人権教育、教育活動全体を通した道徳教育、地域にねざした郷土教育を通じ、豊かな心を育みます。
②子どもの実態把握に努め、いじめ防止に取り組みます。また、事案が起きた際は、保護者、学校、関係諸機関と連携のもと対応します。
③キャリア教育のなか、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成します。

◈分野別計画等

・乳幼児教育保育アクションプラン ・第2期子ども・子育て支援事業計画 ・第3次子ども読書活動推進計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
各校で実施した外部講師を招聘した人権教育研修実績 出典 市実績	回	実績	9	4	6	6	5
		目標(※)					
いじめの認知件数 出典 市実績	件	実績	小1,014 中153	小639 中174	小875 中153	小828 中164	小1,031 中153
		目標(※)					
「自分には、よいところがある」という問いに肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 全国学力・学習状況調査	%	実績	小:71.6 中:72.1	調査なし	小:72.2 中:72.6	小:74.0 中:71.3	小:81.7 中:77.1
		目標(※)					
「人の役に立つ人間になりたい」という問いに肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 全国学力・学習状況調査	%	実績	小:93.2 中:92.8	調査なし	小:93.4 中:92.7	小:95.5 中:93.8	小:92.8 中:90.2
		目標(※)					
「将来の夢や目標を持っている」という問いに肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 全国学力・学習状況調査	%	実績	小:79.6 中:67.4	調査なし	小:78.6 中:66.0	小:78.0 中:67.2	小:78.7 中:59.4
		目標(※)					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載(目標値がない場合は斜線)

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	人権教育の研修に関する事務(学校教育課)	施策の方向性番号	①
	事業概要	各学校における人権教育の充実のために、研修を行った。		
	活動実績	(1) 大阪府教育センターにおける研修への教員の参加 (2) 市内小中学校の人権教育の校内研修及び児童生徒、保護者の学習会及び講演会など (3) 大阪府や各市の人権教育関係研究発表校の案内を各学校に送付し、研修参加を奨励		
②	事業名	教育相談コーディネーター育成研修(教育支援センター)	施策の方向性番号	②
	事業概要	各校の管理職とコーディネーター教員を集め年間3回の研修会を実施した。		
	活動実績	いじめや暴力行為といった問題行動や不登校等の未然防止に資するため、市域の課題に即した内容の研修会を実施しており、令和5年度は、気になる児童生徒への見立て、支援を充実させるために、校内会議の運営のあり方について弁護士やSSW(※スクールソーシャルワーカーの略)などの専門家を招聘した研修を実施した。日々の教育活動において安心、安全な学校づくりを実現している。 ※SSWとは、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有するもので、子ども自身と子どもを取り巻く環境(学校、家庭、地域等)への働きかけや、関係機関等のネットワークの構築など、多様な支援方法を用いて問題解決への対応を図っていく人材など		

③	事業名	郷土教育及びキャリア教育（学校教育課）	施策の方向性番号	③
	事業概要	郷土教育副読本作成事務　キャリア教育担当者会		
	活動実績	（1）各小学校の担当による郷土教育副読本推進委員会を年3回開催 （2）キャリア教育担当者会を年4回開催		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【学校教育の分野】
豊かな心の醸成に向けて、教員が指導力を高めることができるよう、研修に参加できる機会の確保や、研修会の充実に取り組んだ。その中の取組みのひとつとして、同一中学校区として抱えている課題を各教員が同じ方向性をもって解決に向かうべく、小中合同の研修会を実施した校区もある。
人権研修については、市内の全教職員が人権について学び、指導力を高めることができるよう府内で実施される研修等の周知に努め、研修機会の確保につなげることができた。また、校内での研修の充実を目的に、各学校が講師を呼べるように学校支援を行った。
地域に根差し郷土教育の推進に向けて、四條畷市の歴史や魅力を子どもたちが学べるように、郷土教育副読本を作成、改訂を行った。
小中9年間一貫した視点で子どもたちのキャリア形成ができるように、中学校区内での「めざす子ども像」を共有する取組みを進めるなど、キャリア教育の推進に努めた。
●総括●
各事業が滞りなく順調に進捗しているため全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

研修で学んできたことを各学校で共有し合える場を設け、ひとりの学びから全体の学びへとつなげていけるようにする必要がある。
郷土教育副読本については、校区ごとの白地図が副読本にないことや、社会科の授業で使用する資料の多さから「使用しづらい」という声も聞かれることから、今後は電子化も視野に入れた取組みが必要である。また、キャリア教育については各中学校区で「めざす子ども像」や取組みの共有が重ねられてきていることから、年4回という担当者会の回数については教員の負担軽減も鑑み、適正な回数に検討していきたい。

基本方針	1	主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進

施策	健やかな体の育成

◈施策の方向性

①各校で策定する体力づくりアクションプランに基づき、体力向上の取組み、健康に関する指導、食育の推進等のさらなる充実をめざします。
②学校給食を通じ、学校、地域、家庭の連携により、食の重要性を学ぶ食育を推進します。
③学校給食に地場産食材を積極的に取り入れます。

◈分野別計画等

・第3次食育推進計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5段階総合評価D、Eの児童生徒の割合 (対大阪府を1としたときの割合：1より小さい場合は運動が苦手な児童生徒は少ない) 出典　全国体力・運動能力、運動習慣等調査	%	実績	小5男0.92 小5女1.14 中2男0.88 中2女0.74	調査なし	小5男1.19 小5女1.02 中2男1.09 中2女0.68	小5男0.99 小5女0.92 中2男0.84 中2女0.53	小5男0.99 小5女1.08 中2男1.02 中2女0.91
		目標（※）					
朝食を毎日食べていると答えた児童生徒の割合 出典　全国学力・学習状況調査	%	実績	小93.4 中89.4	調査なし	小90.7 中89.4	小91.1 中89.6	小89.9 中88.7
		全国平均	小95.3 中93.1	調査なし	小94.9 中92.8	小94.4 中91.9	小93.9 中91.2

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査や基礎体力調査、泳力調査等の実施	施策の方向性番号	①
	事業概要	各種調査を行うとともに、その結果を分析することで、各校の体力向上につなげた。		
	活動実績	体育主担者会を定期的に実施し、各種調査の結果をもとに本市の成果と課題の分析 好事例や、具体的な実践の発信・普及		
②	事業名	学校給食センター見学事業（小学校）	施策の方向性番号	②
	事業概要	学校生活における給食への理解を深めるとともに、食の大切さを学ぶために学校給食センターでの見学を実施した。		
	活動実績	田原小学校1年生3クラス、四條畷小学校1年生3クラス、くすのき小学校1年生2クラス		
③	事業名	栄養教諭による食育授業	施策の方向性番号	②
	事業概要	学校生活における給食への理解を深めるとともに、食の大切さを学ぶために食育授業を実施した。		
	活動実績	忍ケ丘小学校全14クラス、四條畷南小学校全7クラス		
④	事業名	学校給食の試食会	施策の方向性番号	②
	事業概要	児童生徒の学校生活における給食への理解を深め、より身近に感じていただくために学校給食の試食会を実施した。		
	活動実績	四條畷小学校、くすのき小学校、岡部小学校、大阪府立交野支援学校四條畷校		

⑤	事業名	学校給食における地場産食材の活用	施策の方向性番号	③
	事業概要	給食を通して地域の味を知る機会を提供した。		
	活動実績	使用実績：米（米飯委託会社に納品）、たまねぎ、青ねぎ、味噌、チンゲン菜、小松菜、かぼちゃ		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査や基礎体力調査、泳力調査】
中学校2年生女子は大阪府と比較すると運動が苦手な生徒数は少ない。分析結果をもとに指導助言し各校で独自の取組みが推進されたので、創意工夫は前進とする。
【学校給食センター見学事業】
6小学校中半分の3小学校が見学できた。見学した児童から給食に感謝して食べられるようになったとの感想が聞かれた。実際に調理時間に来てもらいにおいも含めて感じてもらえるように工夫したので創意工夫は前進とした。
【栄養士による食育授業】小学校2校で実施。小学生向けにバランスの良い食生活の大切さについて指導した。実施したクラスでは給食の残食が減少するなどの効果が見られ、先進性を前進とした。
【学校給食の試食会、学校給食における地場産食材の活用】
希望される保護者等を対象に給食試食会を実施し、バランスの取れた学校給食を試食していただき、同時に食育についても保護者の理解は深まった。児童生徒には、地産地消の観点から地場産の食材を給食で提供しており、献立表にも記載することで、児童生徒の食育を推進した。
【総括】
健やかな体の育成については、年々、運動が苦手な児童生徒数が減少傾向にあり、効果的な取組みも実施できたので概ね順調である。

◈今後の課題や方針

子どもたちが保健や体育等の授業を楽しんで受けることができるような授業改善を指導・助言していく。
地場産食材の活用については、物価高騰や不作の影響を受けて、納品量が減っているが、使用率を維持できるように交渉していく。

基本方針	2	個を認め、寄り添い、活かす教育の推進

施策	ライフステージに応じた継続的な支援の充実

◈施策の方向性

①すべての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、多様な学習活動の実態を踏まえ、個の状況に応じた必要な支援を行います。
②スムーズな就学や進学、個に応じた支援の充実、ユニバーサルデザインによる授業や集団づくりに努めます。
③さまざまな立場にある子どもたちが、互いを認め合い、ともに学び、ともに育つ人権教育の充実を図ります。
④日本語指導教室の設置、自立支援通訳者の配置等を通じて、外国にルーツがある児童生徒への個別支援に対応できる体制を整えます。
⑤だれもが地域社会の一員として情報を正しく享受できるよう、にほんご教室等の学びの場の提供や民間識字教室の運営支援、情報発信におけるやさしい日本語やピクトグラム（絵文字）の取組みなどの識字施策を推進します。
⑥ひきこもり等にある子ども、若者への支援として、関係機関、団体との協働により、一義的な相談窓口の充実と、これらが連携した取組みとともに、民生児童委員、地区福祉委員会やコミュニティ・ソーシャル・ワーカーによる気軽に相談できる環境づくり、居場所づくりに努めます。
⑦教育センター、子育て総合支援センター、児童発達支援センター及び医療機関等と連携し、心理、医療、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門的な知見を得ながら、不登校児童生徒等への適切な支援を行います。

◈分野別計画等

・市立小中学校におけるICT利活用計画　・識字施策推進指針　・第3次識字基本計画　・子ども・若者育成支援行動計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
就学相談実施後、小学校に就学前の子どもの様子を引き継いだ人数（つながりシートを小学校に引き継いだ件数） 出典　市実績	人	実績	69	75	58	68	72
		目標（※）					
不登校児童生徒のうち相談機関につながった児童生徒数 出典　市実績	人	実績	72人 109人中	53人 115人中	71人 134人中	78人 169人中	88人 175人中
		目標（※）					
臨床心理士に対するひきこもりの相談件数 出典　市実績	件	実績	127	115	16	112	124
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	支援教育関係事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	学校介助員・学校支援員配置、支援教育リーディングチームによる巡回相談を実施した。		
	活動実績	通級指導教室担当教員を中心として構成される支援教育リーディングチームの就学前施設への巡回相談を実施し、早期支援のための実態把握、円滑な就学につないだ。市教育委員会による就学相談及び就学相談に係る各小学校での学校見学会を実施し、小学校入学段階での学びの場を保護者に説明をした。		
②	事業名	教育支援ルーム「フリールームなわて」における不登校児童生徒への支援（教育支援センター）	施策の方向性番号	⑦
	事業概要	四條畷市教育支援ルームとして、不登校児童生徒の支援を行った。		
	活動実績	学校と連携した不登校児童生徒支援を行った。令和5年度は14人の児童生徒が利用し、利用した14人の児童生徒は、令和6年4月時点でおおむね学校復帰している。また、教育相談員の学校訪問により不登校児童生徒への支援を充実させた結果、令和5年度は不登校児童生徒は増加したものの関係機関につながらなかった児童生徒数が減少した。なお、野外活動やイベントも実施しており、不登校児童生徒の主体性を伸ばす取組みに重点を置いている。		
③	事業名	ひきこもり相談（スポーツ・青少年課（青少年育成課））	施策の方向性番号	⑥
	事業概要	中学校卒業後～おおむね39歳までのひきこもりにある本人及びその家族の悩みを聞き、適切な支援に繋げた。		
	活動実績	ひきこもりにある本人及びその家族から延べ124件の相談を受け、福祉政策課の就労支援と一緒に相談を受けていたうちの2件で、就労に繋がった。		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

ライフステージに応じた継続的な支援の充実に向けて、既存の取組みの改善とステイクホルダーや支援が必要である本人及び家族の支援体制の充実に注力した。

【学校教育の分野】

支援教育では、就学前の支援内容や保護者ニーズ、子どもの教育ニーズ等、それぞれを小学校に引き継ぐためのつながりシートを活用した。就学までのスケジュールや学校見学会の持ち方については、学校だけでなく、児童発達支援センターや保健センターなど関係機関とも共有することで、保護者との相談体制の充実が図られた。

【青少年育成の分野】

ひきこもり相談では他機関との連携、特に就労支援と密に連携が取れているため、就労につながるケースも少しずつ出てきているなど、継続的な支援体制の構築として他機関連携を進めることができた。

●総括●

支援の充実が各方向性で図られたことから全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

児童生徒や保護者、相談者の複雑化する背景や求められることに応じるため、より多くの機関と連携する必要がある。そのため、庁内のみならず、フリースクール、子ども食堂等外部とも顔合わせができる機会が必要である。連絡会や日々の情報交換等をとおして、各機関と連携を密にするとともに、気軽に相談できる関係性を築いていきたい。

基本方針	2	個を認め、寄り添い、活かす教育の推進

施策	多様なニーズに即した教育の提供

◈施策の方向性

①すべての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、多様な学習活動の実態を踏まえ、個の状況に応じた必要な支援を行います。
②スムーズな就学や進学、個に応じた支援の充実、ユニバーサルデザインによる授業や集団づくりに努めます。
③さまざまな立場にある子どもたちが、互いを認め合い、ともに学び、ともに育つ人権教育の充実を図ります。
④日本語指導教室の設置、自立支援通訳者の配置等を通じて、外国にルーツがある児童生徒への個別支援に対応できる体制を整えます。
⑤だれもが地域社会の一員として情報を正しく享受できるよう、にほんご教室等の学びの場の提供や民間識字教室の運営支援、情報発信におけるやさしい日本語やピクトグラム（絵文字）の取組みなどの識字施策を推進します。
⑥ひきこもり等にある子ども、若者への支援として、関係機関、団体との協働により、一義的な相談窓口の充実と、これらが連携した取組みとともに、民生児童委員、地区福祉委員会やコミュニティ・ソーシャル・ワーカーによる気軽に相談できる環境づくり、居場所づくりに努めます。
⑦教育センター、子育て総合支援センター、児童発達支援センター及び医療機関等と連携し、心理、医療、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門的な知見を得ながら、不登校児童生徒等への適切な支援を行います。

◈分野別計画等

・市立小中学校におけるICT利活用計画 ・識字施策推進指針 ・第3次識字基本計画 ・子ども・若者育成支援行動計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
市内小中学校における自立支援通訳者による日本語指導時間 出典 市実績	時間	実績	90	146	146	237	371
		目標（※）					
「支援教育の視点から、指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」という問いに対して肯定的に答えた教職員の割合 出典 教職員アンケート	%	実績	小：94.4 中：92.1	小：95.2 中：93.0	小：93.7 中：94.4	小：93.7 中：92.5	小：97.2 中：95.1
		目標（※）					
にほんご教室の開催回数及び学習者数 出典 事務局調査	回・人	実績	教室開催：82回 延べ学習者：783人 学習登録者：81人	教室開催：42回 延べ学習者：166人 学習登録者：26人	教室開催：55回 延べ学習者：267人 学習登録者：18人	教室開催：90回 延べ学習者：500人 学習登録者：39人	教室開催：85回 延べ学習者：611人 学習登録者：55人
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	課題別の人権教育に関する事務（学校教育課）	施策の方向性番号	④
	事業概要	在日外国人児童生徒の学校生活への支援（自立支援事業）		
	活動実績	日本語の習得が十分でない外国籍の児童生徒が市立小中学校に就学した時に、母国語の話せる通訳者を派遣することで、母国語を大切にしながら日本語の基礎習得にあたった。		
②	事業名	支援教育関係事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	学校介助員・学校支援員配置、支援教育リーディングチームによる巡回相談		
	活動実績	（1）各小中学校に学校介助員・看護師、学校支援員を配置し、支援体制の整備を行った。 （2）市支援教育リーディングチームを組織し、各小中学校の巡回相談を行い、支援教育の視点から環境整備や授業改善について管理職や教職員対象にコンサルテーションや研修を行った。		

③	事業名	識字・日本語教室の開催（文化・公民館振興課）	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	四條畷市にほんご教室では非識字者や外国人など日本語のよみ・かき・ことばができずに日常生活に支障をきたしている人を対象に学習支援を行った。毎週の学習の他、日本文化体験や交流、情報提供などの学習外イベントの開催、相談対応を実施した。※木曜：午前10時30分～12時、金曜：午後6時30分～8時（金曜はキッズ教室あり） その他、知的、身体的に障がいのある人などを対象とする民設民営のみんなきてや学級（識字教室）への活動補助の実施を予定していたが、学習希望者がなかったことから教室は休止となった。		

活動実績

【四條畷市にほんご教室】

	R1	R2	R3	R4	R5
開催回数（回）	82	42	55	90	85
延べ学習者数（人）	783	166	267	500	611
学習登録者数（人）	81	26	18	39	55
浴衣de盆踊り参加者数（人）	約40	—	—	—	24
国際交流わくわくパーティー参加者数（人）	約80	—	—	—	50
お花見体験参加者数（人）	—	—	—	—	35
北河内識字日本語交流会参加者数（人）	13	—	—	32	13

【みんなきてや学級】

	R1	R2	R3	R4	R5
開催回数（回）	30	21	13	—	—
延べ学習者数（人）	30	21	13	—	—

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	順調	4
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	6	A

◈振返りと評価の説明

多様なニーズに即した教育の提供に向けて、速やかなニーズへの対応、多様なニーズに答えられる人材の確保に注力できた。

【学校教育の分野】

自立支援事業では、日本語の習得が不十分な児童生徒に対し通訳者を派遣することで、児童生徒は安心感をもって学習に臨むことができ、進路に関することや要提出の書類など、通訳者を通じて、正しい情報を確実に直接保護者に伝えることができた。

支援教育関係事務では、学校介助員や学校支援員を配置することで、多様な教育ニーズに応える学校の環境整備ができ、教育活動における学校介助員、学校支援員の児童生徒への合理的配慮や見守りについては、保護者ニーズも高いことに加え、教職員の負担軽減にもつながっている。

【文化の分野】

にほんご教室では毎週の日本語学習のほか、さまざまな日本文化体験イベントを開催することで学習者同士のつながりを育むことができた。また、みんなきてや学級については休止中ではあるものの、新たな学習希望者が現れた際には速やかに開講する方針を主催者と共有した。その他、令和5年度には学習支援者養成講座を開催し、新たな学習支援者を確保することもできた。

●総括●

多様なニーズに応えられる支援体制を整えることができたことから、全体評価は順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

【学校教育の分野】

日本語指導を要する児童生徒と日本語を母語とする児童生徒が、互いの文化を正しく理解し、お互いの文化を尊重しあえる関係をより一層構築していきたい。また、市内の日本語指導を要する児童生徒同士（時には家族も含め）が交流する場を設け、情報共有等ができるようにしていきたい。

学校介助員、学校支援員の人材育成に係る研修の機会の確保や、個に応じた支援の充実、ユニバーサルデザインによる授業や集団づくりについては、教職員の研修を引き続き重ねていく必要がある。

【文化の分野】

にほんご教室では学習支援者の高齢化が進んでいることから、学習支援者養成講座を継続して実施することにより新たな学習支援者の確保に努める。また、にほんご教室の各種イベントについては、外国にルーツのある住民に日本の文化に触れる機会を提供するとともに、地域とのつながりを作る契機となることから、継続実施する。

基本方針	3	地域の教育コミュニティづくりへの支援

施策	家庭・地域・学校の連携、協働の推進

◈施策の方向性

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域とともにある学校づくりに取り組みます。
②学校の部活動について、地域との連携体制を構築します。
③ふれあい教室の安定運営と多様な受け皿の確保に向けて、ふれあい教室と放課後子ども教室の連携に取り組みます。
④子育て支援と連携のもと、家庭の教育力向上に向けた取組みを推進します。
⑤野外活動や地域活動に加え、各種行事を通じ、豊かな人間性を育み、社会で生きる力と創造力を身につける取組みを行います。

◈分野別計画等

・第2次公民館振興計画　・子ども・若者育成支援行動計画　・第2次スポーツ推進計画　・第3次文化芸術振興計画　・第2期子ども・子育て支援事業計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
「地域の見守りがしっかりしている」という問いに対して肯定的に答えた市民の割合	%	実績	36.5	38.8	39.3	36.5	35.5
出典　市民意識調査		目標（※）					
部活動指導員の年間指導時数	時間	実績	実績なし	354	535	998	1,450
出典		目標（※）					
二十歳の集い参加率	%	実績	74	68	75	76	74
出典		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	地域とともにある学校づくり推進事務（学校教育課）	施策の方向性番号	①
	事業概要	中学校区学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりの推進及び学校教育目標達成に資する学校支援活動の充実を進めた。		
	活動実績	学校運営協議会においてめざす子ども像について熟議し、学校経営方針を共有し、また年度末には、1年の教育活動に対して評価をいただき、地域とともにある学校づくりを推進した。また、大学や地域人材の協力を得て、学校運営協議会が主体的に関わる学校支援活動を実施することができた。		
②	事業名	部活動指導員に関する事務（学校教育課）	施策の方向性番号	②
	事業概要	各中学校の運動部・文化部それぞれに部活動指導員を配置した。		
	活動実績	教職員の働き方改革推進のため、市内全中学校に各1～2人の部活動指導員を配置し、部活動に係る教職員の負担軽減を図るとともに、専門的な指導の充実を図ることができた。令和5年度は野球部2人、バレーボール部、ラグビー部、吹奏楽部、剣道部に1人ずつを配置した。		
③	事業名	なわてふれあい教室と放課後子ども教室連携事業（スポーツ・青少年課（青少年育成課））	施策の方向性番号	③
	事業概要	なわてふれあい教室に通う児童が、放課後子ども教室に参加できるように連携を図った。		
	活動実績	各月の放課後子ども教室の予定表を毎月ふれあい教室に提供し、子ども教室開催日には、参加する児童がスムーズに移動できるよう、ふれあい教室で声掛けを行った。		

④	事業名	市立野外活動センターでのイベントの開催（スポーツ・青少年課（青少年育成課））	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	市立野外活動センター指定管理者が各種イベントを企画・実行した。		
	活動実績	子どもキャンプや親子事業、流星群観望会など、13種類66回イベントを実施、延べ1,690人が参加した。		

	R1	R2	R3	R4	R5
事業数（種類）	8	9	8	11	13
延べ参加者数（人）	1,497	846	1,192	1,957	1,690

⑤	事業名	親学習教材の周知（スポーツ・青少年課（青少年育成課））	施策の方向性番号	④
	事業概要	大阪府教育庁が作成している親学習の教材を、市民に周知した。		
	活動実績	大阪府教育庁が作成した親学習についてのチラシを窓口に配架することで周知した。		
⑥	事業名	二十歳の集いの実施（スポーツ・青少年課（青少年育成課））	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	当該年度に二十歳になる市民から実行委員を公募し、成人の日にお祝いの式典と、実行委員によるアトラクションを実施した。		
	活動実績	令和6年1月8日（月・祝）成人の日に、令和6年二十歳の集いを開催。467人が参加し、式典・アトラクションの二部構成で実施した。		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

家庭・地域・学校の連携、協働の推進に向けて、連絡会等を通したステイクホルダーとの良好な関係づくり及び持続可能な組織体制の構築に取り組んだ。

【学校教育の分野】

例えば、地域とともにある学校づくり推進事務では、令和4年度に全小中学校区で学校運営協議会が設置され、各協議会で研修や先進事例から学び、組織体制も年々積み重ねが図られている。機能面での学校運営方針の承認、評価等も行いながら、地域住民参加の清掃活動、授業支援等、学校運営協議会が主体的に関わる学校支援活動も実施できた。

【青少年育成の分野】

特に放課後子ども教室においては、子どもたちを見守り様々なことを指導する安全管理員の登録が増えてきており、また、1つの学校で実施していた事業を他校でも実施するなど、学校を超えたつながりも見せている。

●総括●

家庭・地域・学校と連携し、協働的な取組みが実施できたことから、全体評価は概ね順調としたほか、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

学校運営協議会委員の研修や新規地域ボランティアの活用等については、限られた地域の資源であるため、学校教育所管課だけでなく、社会教育部局と連携をもう少し密にしていくことで、さらなる充実が図られると考える。

各事業の協力者の募集を電子フォームで実施するなど、応募してもらいやすい環境を整備しているが、協力者数が伸びないことが多い。安定的に協力者を募るために、広報の方法や募集内容などを見直す必要がある。

基本方針	4	豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援

施策	生涯を通じた学習活動の推進

◈施策の方向性

①ライフステージに応じた学びの場を提供するため、大学等との連携をはじめ、多様化、高度化する学習ニーズに対応した生涯学習を推進します。
②自ら学んだ知識や経験など、学びの成果を地域やまちづくりに生かすことができるよう取り組みます。
③人生をより豊かに過ごすため、いつでも、どこでも、だれもがライフステージ、ライフスタイルにあわせて主体的に学び、スポーツ、レクリエーション活動等に参加ができるよう、関係団体との連携した推進体制を充実させます。
④文化芸術活動の成果の発表や公開を通して、市民が文化芸術に触れ、楽しめる機会の充実を図ります。
⑤本市のさまざまな魅力あふれる伝統文化や文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことのできないものであり、郷土の歴史、文化を継承し、郷土への愛着を育むよう、四條畷の宝を市民に広く周知していくための体制を充実します。
⑥子どもの読書習慣の定着に向け、子どもと本をつなぐ取組みの強化に努めるとともに、保護者に向けて、読書の重要性についての発信を強化します。
⑦図書館資料について、分野及び種類ともに幅広い収集、整備に努め、多様化する読書傾向や課題への対応を図り、生涯にわたる学びを支える拠点として、あらゆる年代の読書活動を推進します。

◈分野別計画等

・第2次スポーツ推進計画 ・第3次文化芸術振興計画 ・第2次公民館振興計画 ・第3次子ども読書活動推進計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
市民講座・文化サークルなどが充実していると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	34.5	31.8	29.4	24.2	27.2
		目標（※）					令和8年度 30.9
スポーツ活動やイベントが充実していると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	－	－	－	16.3	18.6
		目標（※）					
これまで身につけた知識、技術、経験を仕事や地域、社会での活動に生かしていると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	－	－	－	30.0	33.2
		目標（※）					
スポーツ・文化・レクリエーション・ボランティアなどの生涯学習活動を楽しんでいると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	－	－	－	22.1	21.1
		目標（※）					
図書館における子ども向け行事実施数 出典 図書館業務報告書	回	実績	91	56	64	100	109
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	畷歩こう会、畷歩こう大会の開催	施策の方向性番号	①
	事業概要	自然と触れ合いながら健康増進と参加者相互の交流を図るべく、毎月第2日曜日（10月は第3日曜日）に四條畷神社から飯盛山頂までのコースで実施した。11月の畷歩こう大会では、参加回数に応じて認定証及び記念盾等を授与した。また、令和5年度からは、市民総合体育館指定管理者への委託事業として実施した。		
	活動実績	令和5年11月12日開催の畷歩こう大会では、四條畷神社下の広場では参加回数に応じて認定証や記念盾等を86人に交付した。また、特別企画として国史跡飯盛城跡現地案内を実施し、文化財担当者が発掘調査の成果をもとに飯盛城跡を案内した。令和5年度は、雨天のため、12回のうち4回は中止となった。		

	R1	R2	R3	R4	R5
延べ参加者数（人）	1,153	431	510	1,091	876
決算額（千円）	323	121	323	121	327

②	事業名	歴史民俗資料館自主事業の実施	施策の方向性番号	①
	事業概要	市内の歴史遺産に関する生涯学習活動の学びの場として、「歩いて学ぶ考古学講座」、「小学校第三学年と第六学年の校外学習」、「夏休みイベント」、「博物館実習」など各種事業を実施した。		
	活動実績			

	R1	R2	R3	R4	R5
歩いて学ぶ考古学講座（年10回）延べ参加者数（人）	302	—	—	304	296
校外学習（小学校第三学年）（校）	7	—	—	6	6
校外学習（小学校第六学年）（校）	0	—	—	1	1
夏休みイベント延べ参加者数（人）		122	—	61	106
博物館実習延べ参加者数（人）	54	30	36	60	78

③	事業名	市民総合体育館自主事業の実施	施策の方向性番号	①
	事業概要	市民がスポーツを始めるきっかけづくりなど、スポーツに接しやすい環境を整えるべく、平日の日中を中心として全年代を対象としたスポーツ教室を実施した。		
	活動実績	市民対象の新たな大会の実施や、ハイレベルの大会を誘致してスポーツの楽しさを市民に伝えるなど、様々な取組みを行った。 主な自主事業：卓球、ヨガ、バドミントン、テニス 新規事業：東海テレビ杯争奪　第62回東海関西対抗学生卓球大会、 （株）ウイング　四條畷市スポーツコモンズジュニア体操大会		

	R1	R2	R3	R4	R5
講座数	27	25	44	45	53

④	事業名	大学等と連携した各種講座の開催	施策の方向性番号	①
	事業概要	市民教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すべく、様々な講座やイベントを実施した。		
	活動実績	【大学等と連携した講座の実施状況】		

	R1	R2	R3	R4	R5
1	来て･みて･遊んで!2019☆ワンピースの夏（天理大学）17人参加	「盤双六の歴史・平安貴族の遊び体験」（大阪電気通信大学）9人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）16人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）12人参加	中国語で読む漢詩講座（大阪電気通信大学）19人参加
2	くらしの相続講座（大阪弁護士会）22人参加	ゼロからはじめるスマホ活用講座（ソフトバンク株式会社）27人参加	盤双六体験コーナー運営協力（大阪電気通信大学）45人参加	夏休みキッズランド「盤双六あそび」（大阪電気通信大学）14人参加	夏休みキッズランド「盤双六あそび」（大阪電気通信大学）11人参加
3	はじめてのスマホ体験講座（ソフトバンク株式会社）14人参加			スマートフォンの使い方教室（奈良先端科学技術大学院大学）延べ235人参加	スマートフォンの使い方教室（奈良先端科学技術大学院大学）延べ411人参加

⑤

事業名	スマホ教室、パソコン基礎講習会の開催及びポケットWi-Fiの貸出	施策の方向性番号	①
事業概要	デジタルデバイドの解消にむけ、パソコン基礎講習会を開催した他、奈良先端科学技術大学院大学のスマートフォンアプリを用いた実証実験として、スマートフォンの使い方教室を開催した。また、ライフスタイルや価値観の多様化に加え、コロナ禍による生活様式の変化等時代に対応するためポケットWi-Fiの貸出しによるインターネット活用など情報化の環境整備を図った。		

活動実績

【パソコン基礎講習会】

	R1	R2	R3	R4	R5
入門・応用講習会受講者数（人）	39	19	23	25	
ワード・エクセル講習受講者数（人）	29	23	15		
年賀状講習受講者数（人）	13	13	8	9	
基礎講習会受講者数（人）					13

【スマートフォン使い方教室】

	R4	R5
開催回数（回）	35	72
延べ受講者数（人）	235	411

【ポケットWi−Fi貸出回数】

	R3	R4	R5
貸出回数（回）	76	196	335

⑥

事業名	市民総合センター及び教育文化センターにおける地域人材と連携した自主事業の実施	施策の方向性番号	②
事業概要	文化芸術分野において活動しているさまざまな地域の方々と連携し、各種事業を実施した。		

活動実績

【地域人材と連携した主な自主事業の展開状況】

市民総合センター

	R4	R5
なわて音楽プロジェクト（回）	7	23（※）
森のオーケストラ（回）	1	1
日本伝統芸能・夏祭（回）	—	1
サマーフェスティバル（回）	—	1

※音楽セミナー12回、サロンコンサート6回、なわてファミリーコンサート2回、特別コンサート2回、合唱団コンサート1回

教育文化センター

	R4	R5
子ども文化体験教室（回）	4	15

⑦

事業名	ブックスタート関係事務	施策の方向性番号	⑥
事業概要	市の乳児4か月検診時を活用し、絵本のプレゼントを行い、小さい頃から絵本と親しむことの魅力をPRし、子どもの読書活動の推進につなげた。		

活動実績

毎月第1木曜日実施（年間12回）

	R1	R2	R3	R4	R5
絵本プレゼント冊数（冊）	371	374	326	337	343

⑧

事業名	図書館資料関係事務	施策の方向性番号	⑦
事業概要	蔵書を構築するため、購入や寄贈の受入れなどの方法により図書の収集を行うとともに、経年や痛み等の理由により役割を終えた図書の除籍等を行うことにより、書架に並ぶ図書の管理・更新を行った。また、各種コーナーを設けて、本選びのサポートを行った。		

活動実績

予算確保のもと図書の購入を継続的に行うとともに、市民から寄贈を受けた図書の受入れも行った。

	R1	R2	R3	R4	R5
図書受入れ冊数（冊）	8,433	7,759	7,697	7,212	7,639

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【スポーツの分野】
各事業とも新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、参加者数は増加の傾向が見られた。
【文化財の分野】
市内の歴史遺産に関する生涯学習活動を実施した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、参加者数は増加の傾向となり回復が見られた。
【図書の分野】
確実に予定どおりの行事数を実施するとともに、施策の方向性⑦についても予算に対応した購入に加え、寄贈図書の受入れも一定行ったことから、概ね順調と考える。
その他、子どもと保護者が一緒に楽しめる行事実施後、希望者の子どもを預かり、保護者の本選びや読書の時間を確保するサポートを行う取組みを新たに開始するとともに、来館が難しい子どもや保護者への対応として、保育所等への出前おはなし会や、保護者が集まる場所への出張PRなどを行った。
【文化の分野】
大学等との連携により、各種講座を開催することができた。また、市民総合センター及び教育文化センター指定管理者の自主事業では、文化振興に向けて地域人材と連携した様々な事業を展開できた。また、ポケットWi-Fi貸出件数は年々増加しており、オンラインでのサークル参加や会議開催を可能とするなど、市民の利便性向上に繋がっている。
●総括●
参加者数が減少傾向となっている事業もあるものの、スポーツ・文化財・図書・文化の4分野における事業は着実に実施していることから、全体評価を概ね順調と評価。また、図書の分野における保護者の本選びや読書の時間を確保するサポートを行う取組みを新たに開始した点は先進性を有するものであることから前進と評価。その他、文化の分野において、ポケットWi-Fiの貸し出しにより市民の利便性向上に繋がっている点を踏まえ、創意工夫を前進と評価した。

◈今後の課題や方針

【スポーツの分野】
畷歩こう会、畷歩こう大会の運営委託について、令和5年度よりスポーツ全般に知見のある市民総合体育館指定管理者に変更し、ボランティアスタッフを募り協力のもと、運営を行ってきているが、新たなボランティアスタッフの獲得に課題があるため、募集の方法等を検討していく。
【文化財の分野】
歴史民俗資料館の自主事業については、好評を得ている事業を継続するとともに新たな企画を考案していく。また小学校の校外学習については、資料館へ来館できない学校への出前講座も希望により展開していく。
【図書の分野】
子どもの読書活動の推進は、小さい頃から本に親しむことが効果的であることから、子育て世代、特に乳幼児の保護者へのPRが重要となるが、来館の時間がとれなかったり、来館してもゆっくりできない保護者が多いとの印象があり、効果的なPR策を考える必要がある。
また、施策の方向性⑦に関しては、高齢化社会の進展による長時間滞在者の増加や、大人の学びが注目されていることなど、図書館に求められる役割の転換期にあると考えられることから、ハード面を含めた再構築が課題と考える。
【文化の分野】
指定管理者自主事業では、引き続き地域人材との連携を大切に進める。また、多様な市民の学習ニーズに対応できるよう、大学をはじめ様々な団体等との連携を強化し、専門的な見地からの特色ある講座の実施に繋げる。

基本方針	4	豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援

施策	生涯を豊かにする文化芸術・スポーツ活動の充実

◈施策の方向性

①ライフステージに応じた学びの場を提供するため、大学等との連携をはじめ、多様化、高度化する学習ニーズに対応した生涯学習を推進します。
②自ら学んだ知識や経験など、学びの成果を地域やまちづくりに生かすことができるよう取り組みます。
③人生をより豊かに過ごすため、いつでも、どこでも、だれもがライフステージ、ライフスタイルにあわせて主体的に学び、スポーツ、レクリエーション活動等に参加ができるよう、関係団体との連携した推進体制を充実させます。
④文化芸術活動の成果の発表や公開を通して、市民が文化芸術に触れ、楽しめる機会の充実を図ります。
⑤本市のさまざまな魅力あふれる伝統文化や文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことのできないものであり、郷土の歴史、文化を継承し、郷土への愛着を育むよう、四條畷の宝を市民に広く周知していくための体制を充実します。
⑥子どもの読書習慣の定着に向け、子どもと本をつなぐ取組みの強化に努めるとともに、保護者に向けて、読書の重要性についての発信を強化します。
⑦図書館資料について、分野及び種類ともに幅広い収集、整備に努め、多様化する読書傾向や課題への対応を図り、生涯にわたる学びを支える拠点として、あらゆる年代の読書活動を推進します。

◈分野別計画等

・第2次スポーツ推進計画 ・第3次文化芸術振興計画 ・第2次公民館振興計画 ・第3次子ども読書活動推進計画

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
スポーツ・文化・レクリエーション・ボランティアなどの生涯学習活動を楽しんでいると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	－	－	－	22.1	21.1
		目標（※）					
歴史を感じる場所があると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	73.4	70.1	70.6	72.0	66.2
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	スポーツフェスティバル2023	施策の方向性番号	③
	事業概要	令和4年度から市民総合体育館指定管理者への委託事業として実施。企画・立案については、スポーツフェスティバル2023企画運営委員会を設置し、市内のスポーツ団体及び大阪電気通信大学の協力のもと、市民がスポーツを通じて健康増進と体力増強を図り、参加者相互の親睦を深めることを趣旨に、インクルーシブ・競技スポーツ・生涯スポーツ・健康チェック等を取り入れた。また、各種体験ブースを設置し、開催種目も増やすなど内容をリニューアルして開催した。 【インクルーシブ】包括的（年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰でも参加いただける意味を含んでいる。）		
	活動実績			

	R1	R2	R3	R4	R5
延べ参加者数（人）	719	—	—	1,351	2,835
決算額（千円）	441	—	—	795	795

※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。令和4年度からはスポーツフェスティバルとして開催。
【実施種目】
午前：各種体験（バドミントン、バスケットボール、レクリエーションスポーツ、グラウンド・ゴルフ、インディアカ、トランポリン、ストラックアウト&スピードガン&ティーバッティング、てづくりおもちゃであそぼう！、けん玉）
マット・一輪車ステージ
午後：各種体験（バドミントン、バスケットボール、レクリエーションスポーツ、グラウンド・ゴルフ、インディアカ、トランポリン、親子サッカー、てづくりおもちゃであそぼう！、公式ワナゲ、剣道、卓球）

②

事業名	ニュースポーツ体験事業の実施	施策の方向性番号	③
事業概要	スポーツ推進委員が中心となり、令和5年度は毎月第1・3土曜日を中心にレクリエーションスポーツ体験事業として、いつでも、どこでも、誰でも気軽に実施できるニュースポーツの普及事業を実施した。		

活動実績

	R1	R2	R3	R4	R5
開催回数（回）	20	15	12	20	20
延べ参加者数（人）	130	104	43	122	256

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部開催を中止した。

③

事業名	市民文化祭の実施	施策の方向性番号	③・④
事業概要	四條畷市文化協会と連携のもと、地域文化の向上や創作活動の普及、促進に向けて、市民の文化芸術活動を発表する場として市民文化祭を開催し、舞台出演の部、展示の部、ワークショップの部、模擬・バザーの部を開催した。 令和5年度より市民文化祭の開催日数を2日間から3日間に拡充し、市民文化祭の活性化を図った。		

活動実績

	R1	R2	R3	R4	R5
舞台出演の部 出演団体数（団体）	40	21	26	37	42
展示の部 出品数（品）	172	92	89	92	239
ワークショップの部 出店団体数（団体）	5	2	1	4	8
模擬・バザーの部 出店団体数（団体）	9	—	3	6	7
来場者数（人）	1,410	281	1,260	1,827	2,790

④

事業名	コーラスフェスティバルの実施	施策の方向性番号	③・④
事業概要	四條畷市合唱連盟との共催でコーラスフェスティバルを開催した。令和5年度は新たに結成された混声合唱団を含む合唱連盟加盟のコーラスグループ5団体が出演した。		

活動実績

	R1	R2	R3	R4	R5
来場者数（人）	約500	—	—	228	298

⑤

事業名	四條畷市吹奏楽祭の実施	施策の方向性番号	③・④
事業概要	四條畷市吹奏楽協議会との連携のもと、市民の音楽に対する関心を深めるとともに、本市の音楽活動の振興と発展及び青少年の健全育成に貢献するため開催した。令和5年度は高等学校、大学、社会人の吹奏楽団4団体が共演した。		

活動実績

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
来場者数（人）	延べ900	中止	—	—	—	376

⑥

事業名	スポーツ・文化奨励賞事務	施策の方向性番号	③
事業概要	スポーツ及び文化の活動において、特に功績が顕著な個人、団体に対し、奨励賞を授与し表彰することにより、本市の活動の振興、発展を促進する。		

活動実績

令和5年度は、12月3日に表彰式を行い、個人27人、3団体を表彰した。
また、令和4年度までの体育・文化奨励賞からスポーツ・文化奨励賞へと改称し、新たに要綱を改正した。

		R1	R2	R3	R4	R5
スポーツ（体育）	個人（人）	13	4	6	9	14
	団体（団体）	0	0	1	1	1
文化	個人（人）	3	3	1	4	13
	団体（団体）	0	1	2	3	2

⑦	事業名	史跡飯盛城跡保存活用計画の策定	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	令和3年10月11日に国史跡に指定された飯盛城跡を適切に次世代へ継承するため、現状と課題を整理したうえで、今後の保存活用を進めていくための指針となる基本的な計画について、大東市とともに令和4年度から策定を進め、令和6年1月に文化庁へ認定申請書を提出した。		
	活動実績	史跡飯盛城跡の活用事業の一環として、大東市とともに実施した「飯盛城跡調査報告会」の参加者数		

	R1	R2	R3	R4	R5
シンポジウム参加者数（人）	570（定員700）	―	121（定員200）	253（定員300）	
連続講座参加者数（人）					30（定員30）

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	順調	4
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	6	A

◈振返りと評価の説明

【スポーツの分野】
スポーツフェスティバルについては、令和4年度からさらに革新し、一日を通して様々な体験ができる内容へとリニューアルし、参加者数を大きく伸ばすことができた。
ニュースポーツ体験事業については、毎月実施することができ、子どもから高齢者まで多くの方に参加してもらうことができた。
スポーツ・文化奨励賞については、活動の振興、発展をより促進するため、表彰式を実施し、広報誌等で受賞者の周知を行うなど、予定通り進めた。また、昨年度の課題であった表彰基準について、他市情報など参考に研究し、見直しを行った。
【文化財の分野】
当初の計画通り史跡飯盛城跡保存活用計画を大東市とともに策定し、文化庁へ計画の認定申請を行った。活用事業の一環として実施した「飯盛城跡調査報告会」については、他都府県からの申し込みもあり好評を得た。
【文化の分野】
さまざまな文化活動がようやくコロナ禍前の状態に戻り、さらなる盛り上がりや発展に向け、行政だけではなく市民サークルをはじめ各種団体が活発に文化活動に取り組まれた。
市民文化祭では、開催日数を2日間から3日間に拡充したことから、特に展示の部の出品数が顕著に増加した。次年度以降、模擬・バザーの部の充実により、さらに賑わいのある市民文化祭となるよう鋭意取り組む。

●総括●
概ね、計画どおりに推進することができたことから全体評価を順調。スポーツフェスティバル・市民文化祭は、団体事務移管後にその方法についてリニューアルし、参加者等が顕著に増加しているため、創意工夫は前進。文化財の分野では、当初の予定どおり実施し、イベントの参加者からも好評を得ている。特に大東市と連携し取組みを進めていることから先進性は前進とした。

◈今後の課題や方針

【スポーツの分野】
スポーツフェスティバルについては、令和5年度より団体からの協力体制を見直したが、今後さらなる内容の見直し、大阪電気通信大学との連携など、運営体制の強化を図る。
スポーツ・文化奨励賞については、令和6年度より活動の振興、発展をより促進するため、より広く表彰式を周知できるよう検討する。
【文化財の分野】
令和6年度は、大東市とともに史跡飯盛城跡保存活用計画に基づき、今後の保存整備をより具体化するための史跡飯盛城跡整備基本計画を策定する。また好評を得ている「飯盛城跡調査報告会」も継続するとともに、様々な方法で周知活動に努めていく。
【文化の分野】
市民文化祭は開催日数を拡充、コーラスフェスティバルは新たな合唱団の参画があり、ともに活性化を図るべく事業を実施することができた一方、四條畷市吹奏楽祭は中学校からの参画が途絶えたことから、次年度には中学生有志の参加を募るなどし、地域で吹奏楽を続けられる環境づくりを検討する。

●総括●
各種イベントでは、創意工夫し、実績につながっている。更に、生涯を通じて、充実した生活につながるよう各分野での課題解決に向け取り組んでいく。

基本方針	5	学びを支える教育環境の整備

施策	安心・安全な施設等の段階的整備

◈施策の方向性

①学校、社会教育施設及び学校給食施設について、施設、設備ごとの老朽化状況等を把握のうえ、優先順位づけを行い、予防保全や長寿命化、ユニバーサルデザインを意識しながら計画的な対応に努めます。
②義務教育学校制度の活用等により、小中一貫教育を推進します。
③教育環境の向上を趣旨とする学校の適正規模、適正配置など、人口動態等を踏まえた学校運営や施設のあり方を検討します。
④公民館など生涯学習活動の拠点となる施設について、ユニバーサルデザインを導入し、新たな学びや出会いが生まれる空間的施設整備を検討します。
⑤新しい生活様式のもと、感染症対策を徹底したうえで児童生徒の学びの継続に向けた取組みを進めます。
⑥通学路等交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い、必要な対策について関係各課、機関と連携します。
⑦命を守る行動ができるよう、防災や交通安全教育の充実に努めます。

◈分野別計画等

・学校再編整備計画 ・個別施設計画【公共施設】 ・学校施設修繕計画 ・第2次スポーツ推進計画 ・第3次文化芸術振興計画 ・学校空調設備整備計画 ・通学路等交通安全プログラム ・登下校防犯プラン

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
小学校・中学校などの教育環境が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	34.7	36.8	41.2	31.6	34.0
		目標（※）					
公民館、図書館などの文化施設が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	37.6	38.0	38.8	32.4	35.4
		目標（※）					
テニスコートや体育館などの運動施設が充実していると答えた市民の割合（肯定的割合） 出典 市民意識調査	%	実績	36.4	32.9	34.8	29.1	27.3
		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	市立小中学校校舎棟空調設備整備工事	施策の方向性番号	①
	事業概要	学校空調設備整備計画（令和元年10月策定）に基づき、岡部小学校、四條畷中学校及び四條畷西中学校の校舎棟の空調設備の更新・新設工事を行った。		
	活動実績	同計画に基づき令和3年度から順次実施してきた市立小中学校の校舎棟空調の更新・新設について、令和5年度をもってすべての小中学校で完了し、その結果、校舎内の普通教室、特別教室及び管理諸室の児童生徒や教職員が利用するすべての室に空調設備が整備された。 なお、同計画に基づき、すべての市立小中学校の屋内運動場への空調設備の新設を令和3年度に完了している。		
②	事業名	学校施設整備方針の改訂	施策の方向性番号	③
	事業概要	学校施設整備方針（令和4年9月策定）を改訂した。		
	活動実績	策定から一定年数経過した学校再編整備計画を統合し、公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の一部としての位置づけとするとともに、教育委員会としての考え方を具体化するにあたり、学校施設整備の水準や実施計画等を追加するため、学校施設整備方針を改訂した。		
③	事業名	四條畷市立学校給食センター施設・設備等修繕計画に基づく更新工事	施策の方向性番号	①
	事業概要	四條畷市立学校給食センター施設・設備等修繕計画（令和4年11月策定（令和5年10月改訂））に基づき、老朽化した厨房機器等の更新を行った。		
	活動実績	四條畷市立学校給食センター施設・設備等修繕計画をもとに、食缶類洗浄機、一槽シンク、厨芥処理機、スチームコンベクションオーブン、消毒保管機の厨房機器の更新工事、高圧受変電設備、給湯配管、貯水槽設備の改修工事、洗浄室照明、消防設備の修繕工事を行った。		

④	事業名	市民活動センター、市民総合体育館及び屋外体育施設の施設維持・管理	施策の方向性番号	①
	事業概要	上記施設の安心安全、快適な利用を趣旨に、下記事業を行った。		
	活動実績	【市民活動センター】 旧校舎の消防用設備修繕（連動用感知器取替、自動火災報知設備および火災通報装置）他 【市民総合体育館】 非常放送設備アンプ取替修繕（令和5年度からの繰越し）、エレベーター改修工事、樹木剪定、駐車場前銘板取替え及び外階段の工事実施設計委託　他 【屋外体育施設】 青少年コミュニティー運動広場女子トイレ修繕及び草木除去　他		
⑤	事業名	市民総合センター及び市立公民館の施設維持・管理	施策の方向性番号	①
	事業概要	上記施設の安心安全、快適な利用を趣旨に、下記事業を行った。		
	活動実績	【市民総合センター及び市立公民館】 舞台照明用ランプ交換修理、舞台用音響卓修繕、ホール用トイレ換気扇取替、1階男子トイレ排水溝修繕、1階3階トイレ床塩ビシート張替　他（指定管理者の管理運営委託料で実施）		
⑥	事業名	歴史民俗資料館の施設維持・管理	施策の方向性番号	①
	事業概要	上記施設の安心安全、快適な利用を趣旨に、下記事業を行った。		
	活動実績	【歴史民俗資料館】 女子トイレ洋便器入替工事（指定管理者の管理運営委託料で実施）		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

各施設の修繕計画等の諸計画に基づき、予防保全の考え方も含めた設備更新や老朽化対策等を実施した。

なかでも、学校施設の屋内運動場や特別教室への空調設備の整備は、全国的に未整備の自治体が多い中、先進して完了したことから、先進性を前進とした。また、市民総合センターをはじめ、個別施設計画【公共施設】における施設の集約化等の状況から、一部の施設で予防保全の対応ができなかったが、各施設において、修繕計画等に基づいた計画的な修繕、更新等を実施し、施設利用者の安心安全かつ快適な利用に寄与できていることを鑑み、全体評価を概ね順調とし、総合評価をAとした。

◈今後の課題や方針

教育委員会が管理している施設の多くで老朽化が進んでいることから、引き続き、個別施設計画【公共施設】の動向も注視しながら、各施設の修繕計画等に基づいた計画的な老朽化対策を実施するとともに、施設の整備を行う際には、時代に応じた魅力ある環境整備に努める。

基本方針	5	学びを支える教育環境の整備

施策	持続的で魅力ある学校教育の推進

◈施策の方向性

①学校、社会教育施設及び学校給食施設について、施設、設備ごとの老朽化状況等を把握のうえ、優先順位づけを行い、予防保全や長寿命化、ユニバーサルデザインを意識しながら計画的な対応に努めます。
②義務教育学校制度の活用等により、小中一貫教育を推進します。
③教育環境の向上を趣旨とする学校の適正規模、適正配置など、人口動態等を踏まえた学校運営や施設のあり方を検討します。
④公民館など生涯学習活動の拠点となる施設について、ユニバーサルデザインを導入し、新たな学びや出会いが生まれる空間的施設整備を検討します。
⑤新しい生活様式のもと、感染症対策を徹底したうえで児童生徒の学びの継続に向けた取組みを進めます。
⑥通学路等交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い、必要な対策について関係各課、機関と連携します。
⑦命を守る行動ができるよう、防災や交通安全教育の充実に努めます。

◈分野別計画等

・学校再編整備計画 ・個別施設計画【公共施設】 ・学校施設修繕計画 ・第2次スポーツ推進計画 ・第3次文化芸術振興計画 ・学校空調設備整備計画 ・通学路等交通安全プログラム ・登下校防犯プラン

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
「交通事故や犯罪などが少ない」という問いに対して肯定的に答えた市民の割合	箇所	実績	54.8	57.8	57.5	55.6	53.3
出典 市民意識調査		目標（※）					

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載（目標値がない場合は斜線）

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	通学路等交通安全プログラム及び小学校安全対策事務	施策の方向性番号	⑥
	事業概要	四條畷市通学路等交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し、児童が安全に通学できるよう継続的に通学路の安全確保、児童の安全確保及び学校の安全管理等、通学路に重点をおいた交通安全対策の推進を図った。		
	活動実績	市立小学校等からの要望に基づき、庁内関係部署と関係機関である大阪府枚方土木事務所、国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所北大阪維持出張所、大阪府警察本部四條畷警察署で組織する通学路安全推進会議において、通学路の危険箇所の内容を共有し、ハード面（カーブミラーの設置、グリーベルトの敷設、注意喚起の看板設置等）、ソフト面（学校における安全指導等）等対応策を検討のうえ、関係部局の役割のもと実施した。		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

持続的で魅力ある学校教育の推進に向けて、地域や関係機関と連携することに重点を置き施策を進めた。
【学校教育の分野】
持続可能かつ安全安心な通学路の整備については、通学路等交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し、通学路の危険箇所について合同点検を実施したことで、通学路の安全な環境を構築することができたことから、全体評価は概ね順調とした。
●総括●
昨年度より合同点検の実施時期を3年に1回から1年に1回に変更したことにより、小中学校の通学路等における危険箇所への要望に対し、即効性のあるものを短期的対策ができた。歩道の拡幅（歩行者溜りが必要）や信号機の設置などの道路用地の買収が必要な場合には、費用と時間及び沿線住民の協力が必要なるため長期的対策とする等、より効果的な安全対策を検討・実施できたことから、先進性と創意工夫ともに前進とした。

◈今後の課題や方針

交通安全の観点から危険と認められる箇所について対策を検討実施しているが、年々、市立小学校等からの要望が複雑化しており、中には、交通安全とは違った観点での要望や、交通マナーの問題等があげられている。再度、本プログラムの趣旨について学校へ理解を促すとともに、学校を通じてPTAにも周知を図り、地域と協働できる体制づくりを推進していきたい。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	教職員の資質能力の向上

◈施策の方向性

①多様で複雑化した教育ニーズや社会変化への対応など、教員として求められる資質、能力、指導力向上のための、キャリアステージに応じた質の高い研修を行います。
②校内研修等を通じ、教員同士で学び合い、高め合うなか、学校力の向上を図ります。
③教員の業務を整理し、多忙化、勤務の長時間化の解消、負担軽減に取り組みます。
④校務のICT化により、業務の負担軽減と教育の質の向上をめざします。
⑤ICT環境の整備と情報セキュリティの確保に取り組みます。

◈分野別計画等

・まなびのプラン ・市立小中学校におけるICT利活用計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる」という問いに対して肯定的に答えた教職員の割合 出典 教職員アンケート	%	実績			小:95.4 中:86.2	小:92.1 中:92.4	小:97.5 中:91.5
		目標(※)				小:97 中:91	小:98 中:95
「授業中、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という問いに対して肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 児童生徒アンケート	%	実績			小:75.0 中:79.8	小:82.6 中:90.2	小:82.8 中:89.6
		目標(※)				小:75.0 中:83.0	小:77 中:83

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載(目標値がない場合は斜線)

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	初任者・2年次・5年次・10年経験者研修	施策の方向性番号	①
	事業概要	教員の経験年数に応じた市主催研修を実施した。		
	活動実績	初任者研修(授業づくり、特活・総合、人権教育、支援教育、児童生徒理解、地域教材・人材の活用) 2年次研修(授業づくり、応急手当、社会体験、人権教育) 5年次研修(授業づくり、道徳、人権教育) 10年経験者研修(授業づくり、人権教育、支援教育、児童生徒理解、地域教材・人材の活用) ・指導主事、外部講師や専門家の活用、スポーツ・文化財振興課・保育園・子育て総合支援センターなど関係機関との連携により実施 ・新たな学び(新たな知識や経験など)や学びの深まり(自己の振返りや知識のアップデートなど)をねらいとし、キャリアステージに応じた研修を実施し、法定研修の機会を通して計画的な育成		
②	事業名	校内研究等への指導助言(教育支援センター・学校教育課)	施策の方向性番号	②
	事業概要	各校の校内研究等への指導助言により、学校力、教員の授業力の向上を図った。		
	活動実績	・初任者(2回/年)、2年次(2回/年)、5年次(1回/年)、10年経験者(1回/年)の研究授業に対する指導助言 ・校内研修、研究会等での指導助言		

③	事業名	指導・研修関係事務	施策の方向性番号	①
	事業概要	教職員の専門的な知識の醸成、市内での組織力・授業力の推進を図った。		
	活動実績	・英語、情報教育、支援、専門家連携等の担当者連絡会の実施 ・ヒアリングによる各校への指導助言 ・指導主事、大学教授、企業、支援学校、大阪府政策アドバイザー、弁護士、スクールソーシャルワーカー、保育園長、警察など外部有識者や専門家、関係機関を講師として招聘。 ・担当者は、連絡会での学びをいかし、校内の授業改善・学力向上の取組み推進・生徒指導体制の構築等、組織的・計画的に取組みを推進		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	順調	4
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	6	A

◈振返りと評価の説明

【学校教育の分野】
児童生徒アンケート結果からも、教員の資質能力の向上のうち、授業力については、四條畷市授業スタンダードを活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が図られた。
●総括●
教職員研修についても、市域の実態に合わせ、研修講師等を招聘し実施できている。近隣市では、学識、専門家等を多く招聘し専門性に特化した研修会を実施している回数が本市よりも多い。より一層必要な研修を実施できるよう見直す必要がある。

◈今後の課題や方針

保護者、地域の教育に対するニーズの多様化から、教職員の資質能力のうち経験年数の少ない教職員等の対人折衝力の育成は喫緊の課題である。令和6年度から「接遇研修」をあらたに研修として位置づけ実施していく。また、いじめ対応等、法的解釈の理解とともに適切な対応力も求められる。令和6年度からスクールロイヤーを活用した研修を実施し、特に管理職のスキル向上に努める。また、ファシリテーション能力を育成していけるよう本市の指導教諭を活用した研修を実施し、教員のロールモデルとしての活用を充実させていく。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	持続可能な指導体制の整備

◈施策の方向性

①多様で複雑化した教育ニーズや社会変化への対応など、教員として求められる資質、能力、指導力向上のための、キャリアステージに応じた質の高い研修を行います。
②校内研修等を通じ、教員同士で学び合い、高め合うなか、学校力の向上を図ります。
③教員の業務を整理し、多忙化、勤務の長時間化の解消、負担軽減に取り組みます。
④校務のICT化により、業務の負担軽減と教育の質の向上をめざします。
⑤ICT環境の整備と情報セキュリティの確保に取り組みます。

◈分野別計画等

・まなびのプラン ・市立小中学校におけるICT利活用計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導している」という問いに対して肯定的に答えた教員の割合 出典 学校における教育の情報化の実態等に関する調査	%	実績			65	小:63.9 中:50.9	小:61.5 中:82.6
		目標(※)			65	70	75
教職員の時間外勤務時間削減時間数(一人あたりの年平均) 出典 校務支援システム状況調査	時間	実績			年平均 (小)5.8時間削減 (中)3.5時間削減	年平均 (小)79時間削減 (中)97時間削減	年平均 (小)89時間削減 (中)100時間削減
		目標(※)			年平均 (小)72時間削減 (中)132時間削減	年平均 (小)86時間削減 (中)158時間削減	年平均 (小)104時間削減 (中)190時間削減

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載(目標値がない場合は斜線)

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	小学校水泳指導委託事務	施策の方向性番号	③
	事業概要	一部の小学校で水泳指導を民間委託した。		
	活動実績	市内6小学校のうち、3小学校の水泳指導の民間委託を実施することで、水泳の専門的な指導を受けることにより児童の泳力向上につながることはもとより、教職員の負担軽減にもつながった。 なお、本市以外に近隣市で実施しているのは一市のみで先進的な取組みである。		
②	事業名	学校ICT運営事務(ICT支援員)	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	令和5年度からICTにかかる職員を3人(1人増員)とし、学校での学習活動に可能な限り支障が生じないようICT機器の不具合発生時に迅速に対応した。		
	活動実績	○対応件数 令和4年度1,310件 → 令和5年度 1,586件 ○故障機対応(端末交換) 令和4年度 855件 → 令和5年度 1,124件 ○障害対応 令和4年度 48件 → 令和5年度 39件		
③	事業名	校務支援システム	施策の方向性番号	③
	事業概要	令和3年度から校務支援システムを導入し教職員の働き方改革を推進		
	活動実績	令和3年度に校務支援システムを導入し教職員の業務時間の削減を実現した。特に学期末、年度末の成績処理、通知表の作成、指導要録の記録のための業務時間が大きく削減されている。また、実装から3年経過したが、年々、効率化が図られており、業務時間が減少している。令和5年度は校務支援システムの学校間メールシステムを活用した校種間連携を推進した。		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	概ね順調	3
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	前進	1

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【学校教育の分野】

先進的にプールの民間委託を先行導入し、教員の業務負担が減少し、勤務の長時間化が解消された。市の規模に関係なくICTに係る業務は他市と同等であるがICT業務を担う職員が少なかったことの課題に対し、ICT支援員を増員できた。学校からの障害対応依頼へも至急の対応ができるようになり、授業でのICTの利活用が安定して実施できるようになった。

●総括●

「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導していると答えた教員の割合（肯定的割合）」は中学校では目標値を大きく上回ったものの、小学校において目標達成しなかった。

◈今後の課題や方針

令和6年度から、水泳指導の小学校全校委託を実施。すべての小学校で多忙化解消へとつなげていく。また、中学校へは自動採点システムを導入することで、勤務の長時間化の解消につなげたい。令和8年4月から使用する学習者用端末（タブレット）の契約に向け、大阪府の共同調達を活用し、児童生徒の利便性はもとより、指導者の視点からもよりよいICTの学習環境を整備していく。情報教育セキュリティポリシーを策定し、将来的には、シングルサインオンの環境を確立するとともに、学習系と校務系の統合システムを実現し、先進的な取組みへと深化させる。

基本方針	6	学びを支える教育体制の整備

施策	ICT利活用のための基盤整備

◈施策の方向性

①多様で複雑化した教育ニーズや社会変化への対応など、教員として求められる資質、能力、指導力向上のための、キャリアステージに応じた質の高い研修を行います。
②校内研修等を通じ、教員同士で学び合い、高め合うなか、学校力の向上を図ります。
③教員の業務を整理し、多忙化、勤務の長時間化の解消、負担軽減に取り組みます。
④校務のICT化により、業務の負担軽減と教育の質の向上をめざします。
⑤ICT環境の整備と情報セキュリティの確保に取り組みます。

◈分野別計画等

・まなびのプラン ・市立小中学校におけるICT利活用計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画 ・市立小中学校における教育の情報化整備計画に基づくGIGAスクール構想

指標	単位	数値					
		項目	R1	R2	R3	R4	R5
「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、PCや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する」という問いに対して肯定的に答えた教員の割合 出典 教職員アンケート	%	実績				小:72.7 中:92.3	小:82.7 中:91.3
		目標(※)				70	75
各教科の平均正答率(観点「知識・技能」)の全国平均正答率を1とした時の割合 出典 全国学力・学習状況調査	%	実績	小:90.8 中:94.3	調査なし	小:94.7 中:93.9	小:92.7 中:91.1	小:93.7 中:94.5
		目標(※)				95	96
「ICT機器を活用することで、進んで(主体的に)学習するようになった」という問いに対して肯定的に答えた児童生徒の割合 出典 児童生徒アンケート	%	実績			65.9	64.3	62.7
		目標(※)			50	55	60

※目標は、分野別計画等に設定されている場合に記載(目標値がない場合は斜線)

◈令和5年度の主な取り組み実績

①	事業名	情報教育担当者会	施策の方向性番号	④
	事業概要	市主催情報教育担当者会を通して、各校のICTの活用促進を図った。		
	活動実績	・情報教育担当者会を年間6回実施することでICTの利活用の平準化が図れた。 ・担当者会で児童生徒に情報活用能力を育成するためのカリキュラム表を作成し、今年度から学校で活用している。 ・AI型ドリル活用研修に業者から講師を招聘し学校へ派遣した。家庭学習での利活用のモデル校として実施できた。		
②	事業名	四條畷市立小中学校校務端末及び校務ネットワーク更新業務委託	施策の方向性番号	③
	事業概要	令和元年度より校務環境(校務端末、ネットワーク、サーバ、インターネット回線等)を整備して活用しているが、これら校務環境の利用契約が令和6年7月31日で満了となることから、課題を整理し新たな環境整備に向け準備を進めた。		
	活動実績	各学校の利用状況等の調査、聞き取りを行い、教職員からは特にレスポンスに関する意見が大半であった。また、校務PCが付与されていない教職員の環境整備が大きな課題であった。回線、ハード機器を同時に整備することで、校務PCのレスポンスを向上させるとともに、職員室内に予備機を設置することで課題解決を図るよう仕様書を作成した。		
③	事業名	四條畷市立小中学校無線LANアクセスポイントの増設及び設定業務委託	施策の方向性番号	⑤
	事業概要	市立小中学校において、教職員がGIGA端末を用いた授業準備や評価を職員室内で行えるよう、職員室に高速大容量無線ネットワーク環境を整備した。		
	活動実績	整備以前は、職員室内での業務ができず、各教室等で実施する不便さがあったが、本整備によりこのような課題が解消され、特にタブレットを活用した授業づくりが容易になった。授業支援ソフトならびにAI型ドリルの利活用が推進できた。		

◈評価

評価項目	評価観点	評価	点数
全体評価	基本方針、施策の目標達成に向け、実施すべき取組みを着実に行っているか	順調	4
先進性	国や他の地方自治体等と比較し、先進的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に先進的に取り組んだことがわかるように記載すること）	前進	1
創意工夫	市の実情等を考慮し、より効果的かつ効率的な取組みを行っているか （主な取り組みや評価の説明に創意工夫したことがわかるように記載すること）	なし	0

総合評価	合計点	総合評価
	5	A

◈振返りと評価の説明

【学校教育の分野】

アクセスポイントの増設、校務ネットワークの高速化、校務PCの更新等、ICTを活用した効率的な業務の実現のために環境整備に取り組んだ。併せて、情報教育担当者会の内容を充実させることで、各校における授業でのICTの活用の推進を図った。環境整備、研修等施策の目標達成に向け、取組みを着実に実施することができた。

●総括●

市域の情報活用能力向上をめざし、情報活用スキルカリキュラム表の作成に取り組むなど一定の先進性のある取組みを実施した。一方で、市の実情に合った創意工夫を凝らした取組みの実施には至らなかった。

◈今後の課題や方針

教職員アンケート「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、PCや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。」は年々向上しており目標を達成している。課題としては、各校の提示装置のうち、普通教室に設置している大型テレビが導入後20年以上経過し、画面も小さく、児童生徒に対しICT機器を効果的に活用できていない状況がみられるため、今後、より効果的に活用できる環境の整備を検討していきたい。

令和5年度実施事業における点検評価総評

外部評価者からの意見・助言等（総評）

この点検・評価報告書は教育委員会が実施した取組みを自己評価したものであると同時に、市民に理解していただくためのものでもあり、報告書は、可能な限りわかりやすく作成することが重要である。その際は、専門用語には注釈を付記し、グラフ、図、写真等を取り入れることも検討すべきである。

また、市民に対して、限られた予算を活用して実施している市独自の事業をもっと積極的にアピールすべきである。その際には、実施事業の一覧表を作成し、報告書に掲載することも一つの方法と考える。

千里金蘭大学 教育学部教育学科 教授 島 善信

報告書全体をとおして、各分野において課題に即した事業を丁寧に取り組まれ、着実に成果を上げていると考える。例えば、学校運営協議会制度の導入、部活動指導員の配置による教職員の負担を軽減するための努力の積み上げは特筆に値する。

指標の数値については、可能な限り他の自治体等と比較を行えるような記載方法にすべきである。

施策の方向性と取り組み実績の整合性がわかりにくいため、今後記載の方法の工夫が必要であると考える。

京都女子大学 発達教育学部教育学科 教授 岩槻 知也